八幡市学校施設長寿命化計画　概要版（令和８年６月改訂）

学校施設長寿命化計画策定の背景・目的等

背景と目的

八幡市（以下「本市」という。）の学校施設は現在、小学校８校、中学校４校があり、それらの大半は建設されてから 40～50 年以上経過し、老朽化・機能低下がみられる校舎等が多くあります。これらの学校施設の修繕や建替えには多額の費用が必要になると考えられ、また、今後とも児童生徒数の減少が見込まれることから、学校施設の適切な配置・維持管理が課題となっています。

このような状況を踏まえ、本計画は、平成 29（2017）年３月に策定された「八幡市公共施設等総合管理計画」（その後、令和４（2022）年３月に改訂）に基づき、教育施設を対象として、現地調査等を踏まえて現状の評価とともに、ライフサイクルコスト、保全優先度等を勘案しながら、今後の維持保全の方向性を検討するとともに、整備内容、整備水準、時期、費用等の具体的な計画として令和３年３月に「八幡市学校施設長寿命化計画」（以下「本計画」という。）を策定しました。

この度、本計画が策定から５年経過したことから、整備の進捗状況や、調査により把握した老朽化状況等を踏まえつつ、現在の市の財政状況を勘案した上で、改訂を行なうものです。

計画期間

本計画は、長期的な視点が不可欠であることから、上位計画である「八幡市公共施設等総合管理計画」の計画期間が 30 年間であることを踏まえ、令和３（2021）年度を初年度とし 30 年後の令和３２（2050）年度までの 30 年間を計画期間とします。

なお、「長寿命化の実施計画」については、取組の実行性を高めるため、令和８（2026）年度～令和 17（2035）年度の 10 年間について整理し、当面５年間の取組をまとめ、施設の老朽化状況、財政状況等を踏まえ５年毎に見直していくこととします。

八幡市学校施設長寿命化計画【令和3（2021）年度～令和32（2050）年度】

実施計画（5年間）	実施計画（5年間）	実施計画（5年間）	実施計画（5年間）	実施計画（5年間）	実施計画（5年間）

対象施設

小学校	八幡小学校、くすのき小学校、さくら小学校、橋本小学校、有都小学校、中央小学校、南山小学校、美濃山小学校
中学校	男山中学校、男山第二中学校、男山第三中学校、男山東中学校

学校施設の目指すべき姿

本計画においては、これら第５次八幡市総合計画で示される「学校教育の主な取組と方向性」、八幡市教育委員会の「保育・学校教育の重点」を踏まえるとともに、次の５つの学校施設の目指すべき姿を整理します。

① 安全性の確保　② 快適性の確保　③ 学習活動の適応性

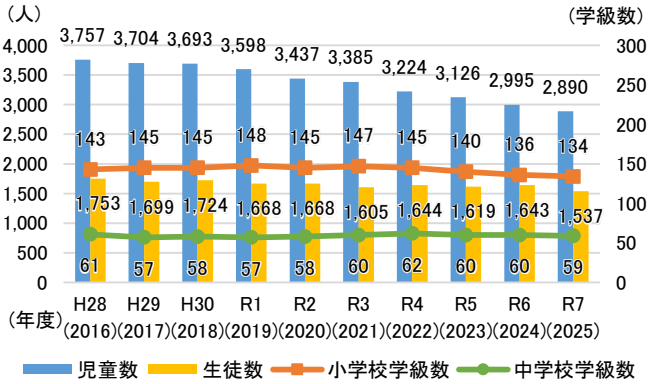
④ 環境への適応性　⑤ 地域の拠点化

参考：「学校施設整備基本構想の在り方について」（平成 25 年 3 月　学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議）

学校施設の運営状況・活用状況等の実態調査

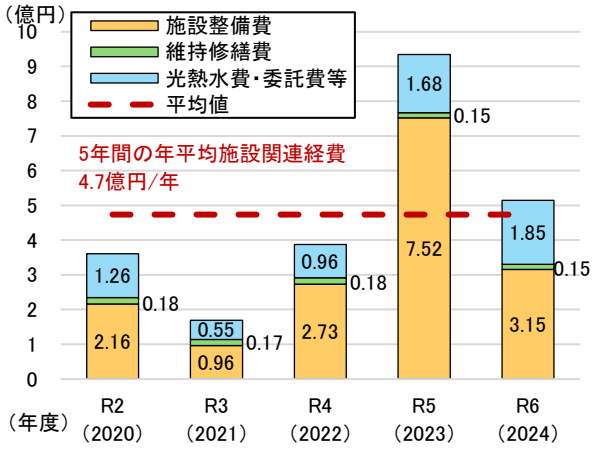
児童生徒数の推移

令和７(2025)年度において小学校の児童数は 2,890 人（134 学級)、中学校の生徒数は 1,537 人（59 学級）となっており、児童生徒数の推移は微減傾向にあります。



施設関連費の推移

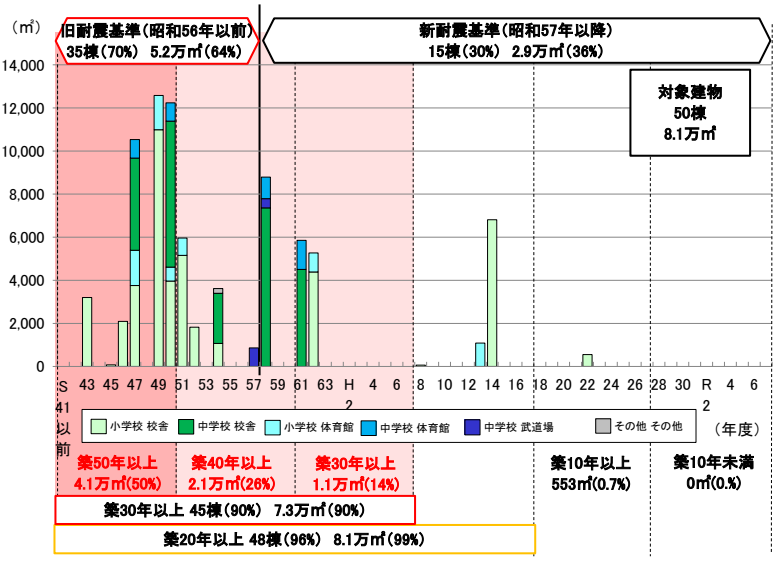
過去５年間（令和２（2020）年度～令和６（2024）年度）の平均は約 4.7 億円/年となっています。



施設の経過状況

築年別整備状況をみると、学校施設は昭和 40 年代、昭和 50 年代に多くが建築されています。旧耐震基準による昭和 56（1981）年以前の建物が全体（8.1 万㎡）の 64%（5.2 万㎡）を占めていますが、すべて耐震改修済みです。

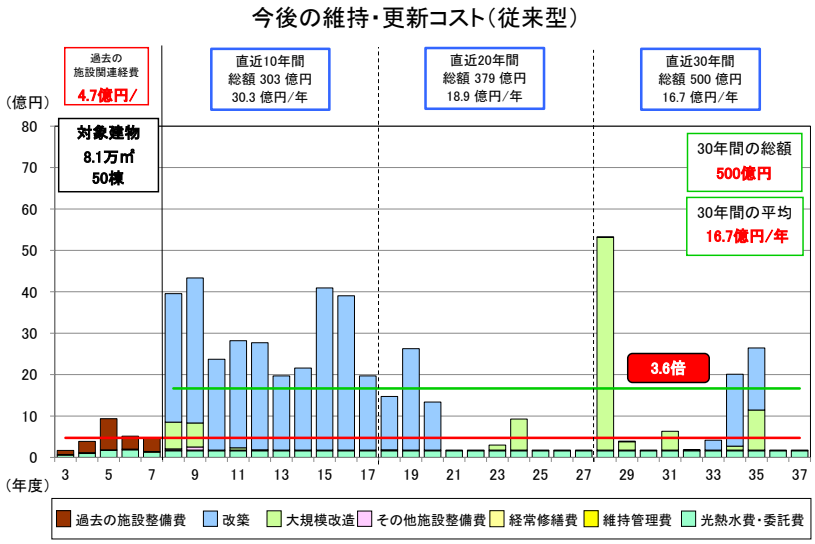
また、一般的に建物の大規模改修を行う目安とされる築 30 年以上経過した建物は全体の 90%を占めており、全体的に老朽化が進行しています。



今後の維持・更新コスト（従来型）

学校施設にかかる将来更新費用を試算すると、30 年間にかかる更新費用の総額は約 500 億円となり、1 年当たりに換算すると毎年 16.7 億円の更新費用が必要となります。

本市の学校施設に対する施設関連経費は、過去５年間の平均額が 4.7 億円であり、年間約 12.0 億円の不足となり、学校施設整備にかかるコストについて縮減していく必要があります。



施設整備の基本的な方針

「八幡市公共施設等総合管理計画」（令和４年３月改訂）、「第５次八幡市総合計画」（平成 30 年３月策定）の考え方を踏襲し、学校施設（小学校８校、中学校４校）は適切な維持管理、改善、及び適切な長寿命化を図っていくものとします。

但し、長期的には、児童生徒数の減少に対応し、必要に応じて学校施設の再編・再配置を検討していくものとします。

長寿命化の方針

学校施設の長寿命化型管理は、①「適切な維持管理」、②「計画的な長寿命化改修」により実施していくものとします。

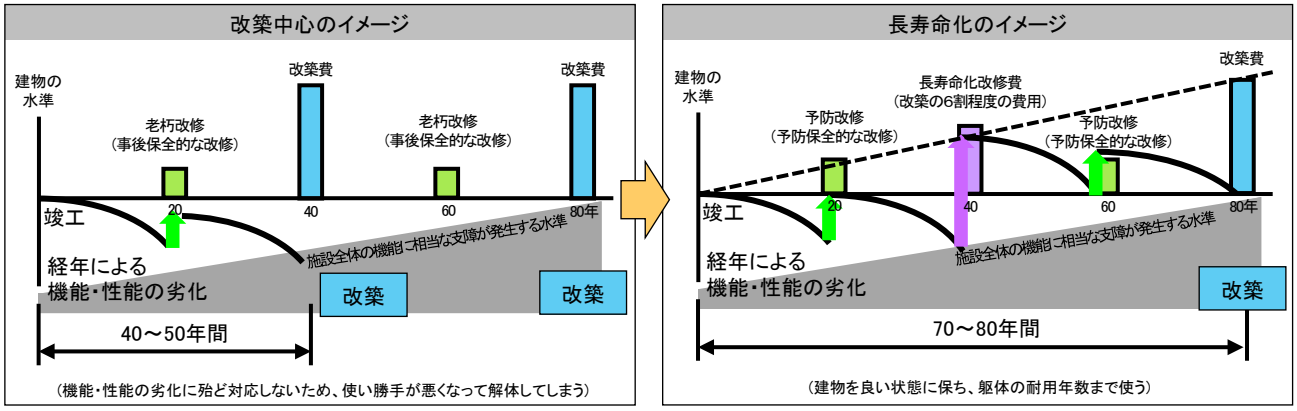
①適切な維持管理

施設をできる限り長く使うためには、適切な維持管理を行っていくことが重要です。そのため、従来のように老朽化による劣化・破損等の大規模な不具合が生じた後に修繕等を行う「事後保全」型の管理から、計画的に施設の点検・修繕等を行い、不具合を未然に防止する「予防保全」型の管理へと転換を図ります。

②計画的な長寿命化改修

計画的な長寿命化型管理を実施するため、「目標耐用年数」、「修繕、改修周期」を設定します。

従来は経年による機能・性能の劣化の原状回復を目的とした事後保全的な改修を適宜行い、一般的に建築後約 40～50 年が経過した段階で建替え（改築）を行うという周期になっています。今後は、計画的な予防改修（予防保全的な改修）、長寿命化改修により築 80 年まで施設を使用することを目標とします。



施設整備の水準

今後、学校施設の改修を行う際には、「安全面」、「機能面」、「環境面」の３つの視点に基づき、施設改修を実施するものとします。

安全面	機能面	環境面
部材の経年劣化による外壁などの落下、設備配管等の劣化などの危険が生じないよう、安全の確保に配慮 学校内への侵入犯罪が生じないよう、安全の確保に配慮	少人数指導や ICT を活用した教育に適応した設備を目指すとともに、老朽化したトイレの改修による衛生面の改善や、障がい者の利用しやすいバリアフリー化への対応など、機能的な施設づくりに配慮	壁や窓等の断熱化による冷暖房の効率化や、照明機器等の省エネルギー化による使用電力量の抑制、二酸化炭素排出量の削減など、環境面に配慮

特に、長寿命化改修では、建物の耐久性を高めるための工事、建物の機能や性能を向上させるための工事を各施設の現況に応じて実施するものとします。

長寿命化の実施計画

改修等の優先順位づけ

改修等の優先順位は、修繕・改修周期の考え方をもとに、建築年数や改めて実施した劣化状況調査の結果を踏まえて、特に構造躯体の健全性に関わる劣化の進行が著しい施設、部位から優先的に実施します。

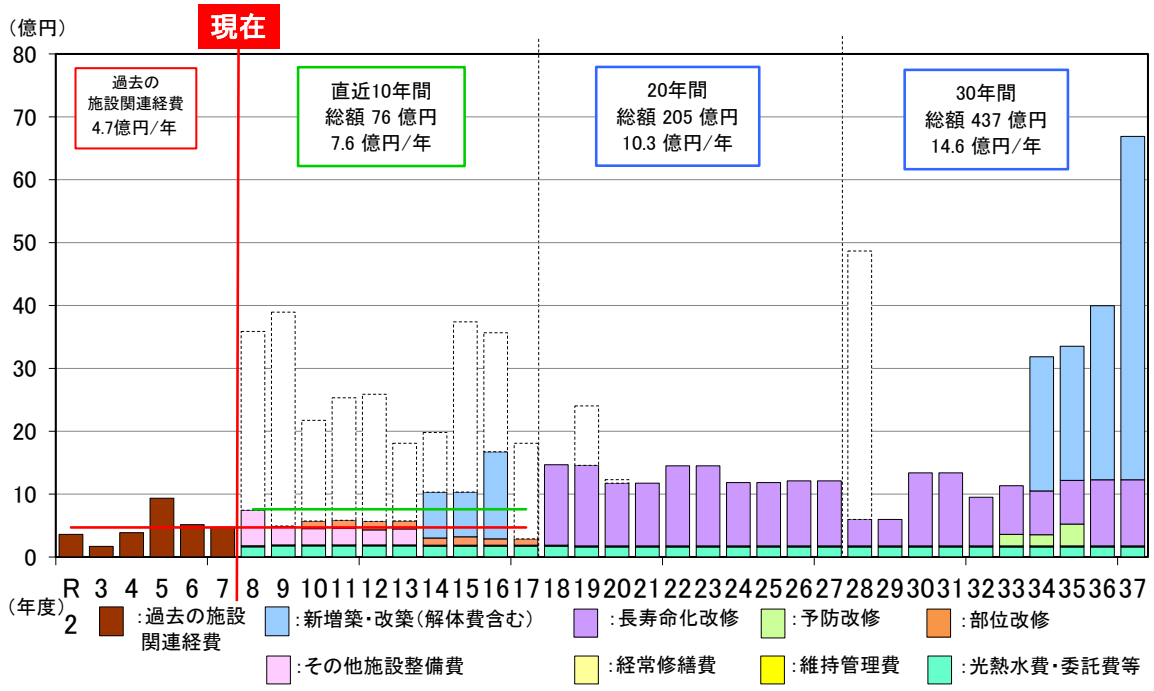
また、八幡小学校については構造躯体の健全性が低く、長寿命化に適さない建物であるため、今後 10 年以内を目途に複合化も含め、建替えることを目指します。

機能向上・改善が必要な建物について、空調の更新、ＬＥＤ照明器具の設置事業を優先的に実施し、トイレ、給食、グラウンドの改修事業については継続的に検討します。

エレベーター設備の設置については、配慮を要する児童生徒等の垂直移動の基礎的整備であることから、要配慮児童生徒等が在籍する学校には優先的・段階的に整備していくこととします。

長寿命化のコストの見通し・長寿命化の効果

当面 10 年間は、改修等の優先順位づけ及び財政状況を考慮し、コストを抑制していることから、長寿命化の効果については、今後の適正規模・適正配置の議論を踏まえ評価する必要があります。なお、直近 10 年間の年平均額は 7.6 億円となり、過去の施設関連経費の年平均額 4.7 億円と比較して、まだ年間約 2.9 億円が不足しており、財源確保等の対策が必要となります。



長寿命化計画の継続的運用方針

- ◆ 学校施設の基本情報や光熱水費をはじめとする運営費、改修・補修等の工事履歴、点検情報など統一フォーマットで管理する保全情報データベースを整理し一元管理を行います。
- ◆ 庁内関係部署間で横断的に連携を図りつつ、本計画を市全体の取組として推進するため、推進体制の構築を図ります。
- ◆ 学校教育を取り巻く環境の変化や児童生徒数の推移等に対応する必要があるため、5 年間隔を目途に、PDCA サイクルによる随時見直しを行い、実現性・実行性を確保した計画とします。

八幡市 こども未来部 こども未来課　〒614-8501 京都府八幡市八幡園内 75 FAX: 075-983-1430